

牛久：学校周辺に見る自然

第14号 牛久二小

2011年5月31日発行

＜ ビオトープ周辺の観察から ～ 春から夏へ：④植物（樹木） ＞

5/20、牛久二小3年生のビオトープ^{かんさつ}観察の続きです。今回は樹木^{じゆもく}の仲間。

(1) ヒイラギナンテン（メギ科）



ヒイラギナンテンの、まだ青く若い実がついていました。ヒイラギのようなトゲトゲの葉っぱ（正しくは小葉^{しょうよう}）とナンテンに似た実からついた名と言われます。春、黄色い花を咲かせてミツバチなどを呼びますが、雄しべはそのつけ根あたりを^{ようじ}楊枝などでつくと内側に向かってパッと閉じます。虫が花の奥にある蜜^{みつ}を吸いに来た時にも同じ現象^{げんしょう}が起こり、花粉を虫の口や体にたっぷりつけて、他の花の雌しべまで運んでもらうのでしょう。



雄しべのつけ根をつくと、瞬間的に雄しべが閉じる。(4/12ひたち野西隣公園)

まだ若い果実。ナンテンに似ている？

(2) ノイバラ（バラ科）



ノイバラの白い花が咲いていました。蜜を求めてか、アリが数匹訪れていました。^{えんげいひんしゆ}園芸品種の大きなバラとはまた違った、かわいい花です。

アリが来ていた。蜜をなめに来た？

(3) アンズ（バラ科）



アンズの若い実もついていた。早春の花もきれいです。熟した果実の香も味もなかなかだと、私は思います。

【理科支援員 宮内】

春、早くに咲くアンズ(2010/3/1)